７月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和８年７月29日（水）		**場　所**	市役所本庁　災害対策本部室
開催時間	１３時３０分　から　１４時５８分まで			
出席者	教育長	髙森　賢一		
	教育委員	宮田　靖、甲斐　千尋、遠田　真央、廣池　加代子		
	参　与	松田　康寿、早瀬　誠一郎、岩佐　正文、日髙　弘子、岩切　隆人 吉田　尚良、尾方　農一、甲斐　保孝、多田　宏		

◎　開　会

髙森教育長が開会を宣した。　（13 時 30 分）

◎　協　議

● 学校教育課長より、令和９年４月１日に開校予定の延岡市立学びの多様化学校（本校型）についての説明があり、その後、熊野江教室の生徒たちが、考案した６つの学校名案について、自ら下記のとおりプレゼンテーションを行った。

○ 熊野江教室の紹介: 豊かな自然、人の良さ、優しい学校の雰囲気といった３つの特徴を挙げた。

○ 学校名考案の経緯: 南浦中学校閉校及び多様化学校の改めての開校のニュースをきっかけに、自分たちの学校名を自分たちで考えたいという思いから、全国に誇れる名前を目指したと説明。生徒、卒業生、保護者、地域からの意見を参考に、「個性」「居場所」「尊重」などのキーワードを抽出して案を練った。

○ 提案された学校名と理由:

① 凪の入り江中学校: 穏やかな水面を表す「凪」に穏やかな日常を、「入り江」に心安らぐ安全な場所、という意味を込めた。

② 凪の浦中学校: 穏やかな状態を表す「凪」に、「浦」の「甫」には広く大きいという意味があることから、熊野江教室から広く大きく羽ばたきたいという思いも込めた。

③ 潮彩中学校: 一人一人の個性や感性を「彩」で表現し、互いを認め合い、個性を活かせる学校にしたいという思いを込めた。

④ 絆の森 潮彩中学校: 生徒、先生、地域との「絆」、成長を意味する「森」、人生を美しく彩る「彩」、そして最適なタイミングを意味する「潮」を組み合わ

せた。

⑤ 絆の森 結中学校：「絆」「森」に加え、人と人、未来、絆、思いをつなぐ「結」に、さらなるつながりへの願いを込めた。

⑥ 虹の晴れ中学校：個性の集まりを「虹」で、前向きに頑張れる明るい学校を「晴れ」で表現した。

○　今後の展望：新校名決定後、校章やマスコットキャラクター、パンフレット作成も行いたいとした。

○　熊野江教室での経験：学校が楽しみになり、苦手だった意見表明や発表ができるようになったこと、自分のペースで学習に取り組めることへの喜びを語り、支えへの感謝を示した。

髙森教育長）　素晴らしい発表であった。胸に迫るものがある。それでは、学校教育課長の最初の説明や、生徒の皆さんの今の発表を聞いて、何か感想でも質問でも構わないので、委員の方々から意見を出してほしいが、いかがか。

◎）　とても素晴らしいプレゼンであった。とても分かりやすく、６つの名前に、それぞれの意味がしっかりと根拠づけられていた。エビデンスという言葉がCMにあるように、それがしっかりと伝わった。

◎）　皆の考えがとても伝わってくるプレゼンであったと思う。特に感じたのは、言葉そのものが持つ意味を込めることに努めているという気持ち。これは、どれを採用しても良いのではないかと思えるほど、考えられた大変素晴らしいものだと感じた。

◎）　素晴らしいプレゼンである。覚えているか分からないが、自分が入学式の際に皆と挨拶を交わしたことを思い出し、皆が大きく成長しているのを見て、刺激をもらった。自分も頑張っていきたい。

◎）　皆が自由な発想で自由な意見を述べ、漢字の重みを表現したことは、何とも言えない。これは皆が気持ちよく学校に通っている証拠であると思った。これからも自分たちが名前を付けた学校に愛着を持って、頑張ってほしい。

髙森教育長）　それでは質問等ないようなので、以上で熊野江教室の生徒たちによる発表を終える。繰り返しになるが、本当に素晴らしいプレゼンであった。

（熊野江教室の生徒、関係者等退室）

● 引き続き協議（学びの多様化学校の学校名決定）

髙森教育長）　それでは引き続き協議を行う。先ほどのプレゼンを受け、来年度から分教室ではなく本校型として新たに開校する学びの多様化学

校の学校名について、６つの案からどれを選択するか。事務局案を学校教育課から提示してほしい。

⇒）　先ほどの生徒たちからの提案で、６つの学校名が出された。学校教育課でも、どれも素晴らしいという意見で割れていたが、どれかに決めなければならないというところから、案を提案する。事務局案として『①凪の入り江中学校』を提案したいと考えている。事務局側としての理由を４つ挙げる。不登校状態にある生徒に対して、まず学校が、生徒にとって心安らぐ場であり、穏やかな日常生活を送ることができる場となることが大切であると考えている。③から⑥の校名で使われている言葉は、いずれも心安らぐ場が前提となった状態から、さらに上のレベルの望ましい状態を表現していると考えている。今回の学校名では、新たな学びの入り口の状態を大切にしたいという考えがあることから、まずは①と②に絞った。また、今後永久的に旧熊野江小学校の校舎を使って多様化学校を運営するとは限らないことから、浦に焦点を当てずに、延岡市全体を入り江と捉えることができる①がふさわしいと考えた。浦は、どうしても北浦、南浦、島野浦のイメージが強いと感じている。校名の中にひらがなの『の』と『り』が入ることで、柔らかさが際立つ。学校をできるだけ感じさせない、学校らしくない校名をというコンセプトもあることから、最終的に『①凪の入り江中学校』を事務局案として選定した。

髙森教育長）　何か質問や意見はないか。

◎）　提案されている学校名がどうであるかということで、自分もどれも良いと思うが、基本的には、先ほど学校教育課長が話したように、居場所としての学校が前提となっており、その『居場所』という部分が強いという意味でよいか。なぜここで質問するかというと、例えば『凪の浦』の『浦』の文字の説明や、『潮彩』の『彩』の漢字の説明を子どもたちからしてもらったが、先ほどの学校教育課長の説明を聞くと、学びの多様化学校としての、独自の教育レベルのようなものを感じる。このような形で、この学校は学んでいくのだという感じがしたため、特にその『居場所』というところに重点が置かれているのだなと思ったが、そのようなことで良いか。

⇒）　様々な居場所づくりが一番大切であると考えている。その居場所が居心地が良く、心落ち着く場所であるからこそ、さらにその上の、自分の個性が発揮できたり、人と人とのきずなが深まったりという発展性が見込まれると考えている。

髙森教育長）　事務局案の検討に入る前には、自分が校長であればどれが良いか、生徒の多くはどれが良いと思っているのか、そして関係してくれたオノコボデザインの方々の意見も聞いている。本当に皆バラバラであった。

◎）　事務局案は、この学校が今後、延岡の中で親しまれるような、語呂合わせ

も非常に爽やかで良いなと感じた。略称で呼ばれたときに、なかなか聞かない『凪中』という言い方が何か素敵だなと思ったところもあった。

髙森教育長）　それでは採決しても良いか。後で正式な議案として審議を行うが、名前としては、『①凪の入り江中学校』で、この協議としては、決定してよろしいか。

委員一同）　異議なし。

髙森教育長）　そのように決定する。では以上で本日の協議は終了する。

◎　会議録の承認

６月15日（月）に開催された６月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎　事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

・６月議会一般質問
・北浦中学校訪問
・役職定年、定年校長との面談
・延岡市倫理法人会モーニングセミナー講話
・一ケ岡小学校訪問
・恒富小学校訪問
・まつり延岡ばんば総踊り
・北浦小学校訪問
・上南方小中学校訪問
・北川小学校訪問
・社会教育委員会議

◆教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員）　南方小学校の学校訪問について報告する。大変大規模校であるため、訪問は駆け足の状態であったものの、学校全体で取り組まれている全員参加型の授業が、先生方の意識のもと、着実に進められている点が印象的であった。その中で、校内教育支援センターを視察した。南方小学校では、これを「ランアップ教室」と名付けている。「ランアップ」とは助走という意味があるとされるが、校内支援センターの性格を考慮すると、このネーミングは大変素晴らしいものである。場所も校舎の図書室の隣に配置されており、広さ的にもよく

考慮されていた。部屋の環境づくりについては、担当の支援員の先生が工夫を凝らして設定しているとのことであったが、掲示物などにより、温かみの感じられる雰囲気が醸し出されており、子どもたちが生活しやすい環境で過ごせるものであった。このセンターは、生活リズムの安定のための居場所提供、学習支援、教育相談といった機能の役割をしっかり把握している。また、この教育支援センターは「誰一人取り残さない新たな学びのフィールド」構築事業として導入されているものと思うが、校長もこの事業が大変効果的であるとして喜んでいた。不登校傾向にある個々の児童生徒の教室復帰を目指すという目的が１つあると思うが、この状況に応じた学習支援の対策として、今後、大変期待が持たれるセンターになっていくのではないか。

廣池委員）一ケ岡小学校の学校訪問について報告する。訪問は７月 13 日月曜日、梅雨明けの日に実施された。これまで福祉の立場から個別支援で学校に入ることはあったものの、このような形で全校生徒の授業の様子を拝見するのは初めてであった。月曜日の週初め、しかも気温が高くなる梅雨明けの日であったにもかかわらず、どの教室にもエアコンがしっかりと整備されており、本当に良い時代になったものであると実感した。その中で、生徒も月曜日にもかかわらず、非常に落ち着いているという印象を受けた。クラスの中の視覚的指示や、わかりやすいスケジュール表など、通常の普通クラスも、特別支援を要する児童のクラスも、きちんと整理されていた。また、この気温が高くなる中、体育館での授業（６年生の体育）があり、スポットクーラーが設置されていた。このスポットクーラーが購入されたものか、リースであるかは不明であるが、体育館の中にもこのような機器が必要な時代になったと感じ、学校の努力の背景が伺えた。全校集会など、体育館でこの時期に開催されることは少ないと考えられたが、学校の方で様々な配慮がされており、オンラインの学校集会が行われていることや、７月以降の体育はプール授業で対応していることなども考慮されているようであった。しかし、このような体育館を使う際の生徒の体調管理において、スポットクーラーのリースや、何らかの助成がどのような形でできるのかと、少し考えさせられる点があった。一ケ岡小学校には「ワニスケ」というキャラクターがおり、随所にワニスケが登場し、１年生から６年生まで子どもにも分かりやすく取り組まれているものであると感じた。

遠田委員）　北浦中学校と北川小学校を訪問した。北浦小学校のホームページが非

常に熱心に更新されており、うまく活用されている点が印象的であった。一方で、北浦小学校で気になったのは、特別支援学級がある校舎が古く、暗い雰囲気であったことである。新しくすることが難しいとしても、飾り付けなど何か工夫を凝らし、もう少し明るいイメージにすれば良いのではないかと思った。また、北浦中学校のプール授業を見て、海のそばの子どもたちであるにもかかわらず、意外と泳ぎが上手ではないことに、昔とは違うという印象を持った。また、方財小学校では、３回目となるサーフィン体験を実施した。さらに、延岡市サーフィン連盟の方で、ジュニアサーフィン体験を長浜海岸で実施した。どちらの体験事業においても印象的だったのは、子どもたちが楽しんでいるだけではなく、先生やスタッフも、安全面の緊張感を持ちつつも終始笑顔で大声を出して楽しんでいる様子であった。この様子から、例えば算数の授業や国語の授業でも、それくらいのテンションでできるような授業のやり方はないかと考え、そうすれば学校が非常に楽しくなるのではないか。また、個人的に北川に遊びに行った際、自分が理事を務める団体の者が、岡富小学校の授業でSUP体験を実施した。校長も一緒に参加しており、非常に良い雰囲気であったため、これも延岡の自然をうまく活かしながら、子どもたちに自然の楽しさや怖さなどを伝えられる良いきっかけであると感じた。

甲斐委員）　５月からのべおか市民大学院を受講している。第１、第３土曜日に九州医療科学大学へ赴き、10時から12時まで専門の先生方から話を聞いており、学生時代に戻った気持ちで、非常に楽しい。７月22日のニュース報道では、2024年に教職に就いた公立の小中高等学校教員の退職者が1319名に上ったことが報じられた。内訳は公立小学校801名、公立中学校365名、公立高校153名である。この退職者数の多さは深刻な状況である。生徒への対応、職場の人間関係、業務負担の増加などが退職理由であるとのことであるが、自分たちの社会においても、若い世代で心のつまずきが多い現状がある。会社に入った者も同様であり、これは今や社会現象であると感じている。しかし、せっかく教職に就いたにもかかわらず、学校に愛着を持っていた者が退職するのは、やはり何らかの原因があるのだろうと考えている。７月24日には北川小学校の学校訪問へ行った。実際に行ってみると、かなり歴史がある学校であることが分かった。現在106年の歴史を持つ。県境に位置しており、スクールバスで通っているという現状である。校区が非常に広く、先生方もまた違った面で配慮を要する学校であると考えさせられた。また、７月26日には、のべおか童謡コンサートへ参加した。現在は何事にも少し顔を出して見てみようと努力している。

髙森教育長） 校内教育支援センターは、７年度が２校、８年度が４校に増え、来年度に向けて予算要求の準備をしているところである。スポットクーラーは大型扇風機とともに購入したもの。

◆各課からの事務報告

● 学校教育課長から、７月１日から開始した学校訪問や６月期の生徒指導に関する状況等について報告があった（その他の課・館は文書による報告）。

◆補正予算報告

● 各課長より、６月議会に上程した補正予算の概要について報告があった。

◆６月議会一般質問報告

● 教育政策課長より、６月議会における一般質問について、12 名の議員から、学校教育などに関する計 27 問の質問があった旨の報告があった。

◎ 議 事

◆議案第 11 号 令和９年度使用小学校用教科用図書の採択（学校教育課）

◆議案第 12 号 令和９年度使用中学校用教科用図書の採択（学校教育課）

● 学校教育課長より、以下の説明が行われ、異議なく承認された。

○ この議案第 11 号・第 12 号は、令和９年度に市内の小・中・義務教育学校で使用する教科用図書について採択をお願いするものである。教科用図書、いわゆる教科書のことだが、この教科書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行令 15 条の規定により、基本的な使用期間が４年と定められており、４年おきに採択替えが行われているので、そのことを踏まえた上で、議案について説明する。

○ まず、議案第 11 号について、現在小学校で使用している教科書については、令和５年度に採択替えがあり、令和９年度は採択から４年目となる。また法令で定める４年間の使用期間内となっているので、令和９年度も今年度と同じ教科書を採択いただきたい。議案の２枚目に採択する教科書の一覧表を添付しているので、確認をお願いしたい。小学校は全部で 11 教科 13 種目となっている。

○ 次に議案第 12 号について、現在中学校で使用している教科書は、令和６年度に採択替えを行っている。令和９年度は採択から３年目となる。こちらの中学校用の教科書についても、法令で定める使用期間となっているので、今年度と同じ教科書を採択いただきたい。議案の２枚目に採択する教科書の一覧表を添付しているので、確認をお願いしたい。中学校は全部で、10 教科 16 種目となっている。

◆議案第 13 号　延岡市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定（学校支援課）

● 学校支援課長より、南浦中学校閉校に伴い、学びの多様化学校分教室を本校型として新設する「凪の入り江中学校」に関する規定を延岡市立学校設置条例に追加すること、および給食開始に伴い給食共同調理場条例を改正することについて説明が行われ、質疑の後、異議なく承認された。

◆議案第 14 号　延岡市青少年指導員の委嘱（社会教育課）

● 社会教育課長より、任期満了に伴う青少年指導員の委嘱において、未定であった１名の追加委嘱について説明が行われ、質疑の後、異議なく承認された。

◆議案第 15 号　延岡西臼杵いじめ問題対策専門家委員会委員の委嘱（学校教育課）

● 学校教育課長より、いじめ防止等のための調査研究を行う委員会の委員について、任期２年のうち１年間の委嘱であった１名の継続委嘱について説明が行われ、質疑の後、異議なく承認された。

◎　その他

◆延岡市立図書館　北方、北浦、北川分館の開館時間の変更について（図書館）

● 図書館長より、利用者の少なさや保安上の問題に対応するため、北方、北浦、北川分館の平日閉館時間を午後７時から午後５時に短縮する試行を、令和８年９月１日から令和９年３月 31 日まで実施することについて説明された。

◆８月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

● ８月定例教育委員会については、８月 26 日（水）の 13 時 30 分から、災害対策本部室で開催する。

◎　閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。　（14 時 58 分）